

平成19年 5月 9日

株 主 各 位

大阪市中央区瓦町一丁目 6 番10号
株式会社アポロ・インベストメント
代表取締役社長 松浦 清

「第35回定時株主総会招集ご通知」の一部追加等について

拝啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、「第 35 回定時株主総会招集ご通知」の一部に追加等がございましたので、ご周知のほど
お願い申し上げます。

敬具

記

追加事項

1 . (添付書類) (25 頁)

(連結貸借対照表に関する注記) の後に下記を追加

(連結損益計算書に関する注記)

(1) 減損損失

減損損失を認識した主な資産

当社グループは、当連結会計年度において、以下のとおり減損損失を計上いたしました。

用途	種類	場所
婦人子供服販売事業関 連資産	建物及び構築物、器具備 品	京都府向日市 埼玉県さいたま市 鹿児島県出水市 佐賀県三養基郡
P C 販売事業関連資産	建物及び構築物、器具備 品	岩手県盛岡市 岩手県北上市 沖縄県中頭郡 愛媛県松山市

減損損失の認識に至った経緯

営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、将来キャッシュ・フローによって
当該資産の簿価全額を回収できる可能性が低いと判断したことから減損損失を計上して
おります。

減損損失の金額

建物及び構築物

72,665千円

その他（器具備品）

19,307

合 計

91,973

資産のグルーピングの方法

当社グループは減損会計の適用に当たって、原則として事業の種類別セグメントを基礎としたグルーピングを行っております。なお、賃貸用資産、店舗用資産、遊休資産については、個々の物件をグルーピングの最小単位としております。

回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、使用価値または正味売却価額により測定しております。回収可能価額を正味売却価額で測定している場合には、原則として零としており、回収可能価額を使用価値で測定している場合には、将来キャッシュ・フローを1.1%で割り引いて算出しております。

(2) のれん一括償却額

のれん一括償却額は、当社の個別財務諸表上、子会社株式（株）オーエー・システム・ブラザ）の評価減を行ったことにより、同社に係るのれんを一括償却したものであります。

2. （添付書類）（重要な後発事象に関する注記）（28・38頁）

下記を追加

(4) 投資事業の廃止に関する事項

当社は純粋持株会社移行したことを契機として事業内容の見直した結果、投資次号から撤退することを平成19年4月25日開催の定時取締役会で決議いたしました。

撤退する事業の内容、規模

投資目的で保有する営業投資有価証券（株式） 1,205,084千円

なお上記株式については今後順次売却処理等を進めていく方針です。

撤退の時期

平成19年4月25日

(5) 資本準備金の額の減少および剰余金の処分

平成19年4月13日開催の当社取締役会において、平成19年5月25日に開催を予定している定時株主総会に、資本準備金の額の減少について付議することを決議致しました。なお、資本準備金の額の減少等は下記のとおりであります。

理由

配当実現のための配当可能利益の確保および自己株式の取得等の資本政策に対する原資の充実と、資本政策上の柔軟かつ機動性を確保するため資本準備金を減少し、併せて繰越利益剰余金の損失2,566,127千円全額の解消を図るためであります。

減少する資本準備金の額

平成19年2月28日現在の資本準備金の金額にあたる4,263,186千円および平成19年3月1日付の第三者割当増資により増加した資本準備金770,000千円の合計額である5,033,186千円のうち5,000,000千円を減少する予定であります。

減少した資本準備金の額は、その他資本剰余金に振り替えます。これにより増加するその他資

本剰余金のうち一部を繰越利益剰余金に振り替え、損失 2,566,127 千円を全額解消するものであります。

資本準備金の額の減少および剰余金の処分のスケジュール
効力発生日として、平成 19 年 6 月 29 日を予定しております。

訂正箇所（訂正箇所には___を付しております。）

3. 株主総会参考書類 第 2 号議案 資本準備金の額の減少の件(44 頁)

2. 準備金の額の減少が効力を生じる日

【誤】平成 19 年 5 月 25 日

【正】平成 19 年 6 月 29 日

4. 株主総会参考書類 第 7 号議案 当社の取締役に対するストック・オプション報酬等上限
枠設定の件(51 頁)

2 段落 6 行目

【誤】社外取締役について年額 500 千円

【正】社外取締役について年額 250 千円

以 上